KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒150-8501 東京都渋谷区道玄坂 1-14-6

● 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。
お客様相談室（東京）電話（03）3477-5335 〒153-0042 東京都目黒区青葉台 3-17-9
（大阪）電話（06）6357-5335 〒534-0024 大阪市都島区東野田町 1-20-5（大阪京橋第一生命ビル）

● アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、添付の「ケンウッド サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスセンター、サービスステーションにご相談ください。

Avino

ステレオインテグレーテッドアンプ・FM/AM チューナー

R-SG7

CD プレーヤー

DP-SG7

ステレオカセットテープデッキ

X-SG7

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返してお読みください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

KENWOOD

B60-4357-00 00 (MA) (J) AP 9902

アビーノシリーズについて

アビーノシリーズをお買い上げいただき、ありがとうございます。
本システムでは、さまざまな組み合わせをお好みで選び、お買い上げいただけます。
システムの組み合わせかたはお客様のご自由ですが、それぞれの機器をシステムコントロール接続すると、次のような便利なシステム操作ができますので、必要に応じてお買い求めください。

リモートコントロール
アンプ・チューナーに付属するリモコンで、ソース機器(CDプレーヤー、カセットデッキ、MDレコーダー)の基本操作をすることができます。

オートマチックオペレーション
ソース機器側の再生を始めると、アンプ・チューナーの入力切換が自動的にその機器の入力に切り換わります。また、アンプ・チューナーで入力切換を選ぶと、入力のソース機器が自動的に再生を始めます。

シンクロ録音
CDまたはMDから録音するときに、ソース機器(CDプレーヤーまたはMDレコーダー)の再生を始めると、連動して録音機器(MDレコーダーまたはカセットデッキ)の録音をスタートさせることができます。(MDレコーダーどうしの録音はできません。)
また、CDやMDのワンタッチエディット録音などの便利な機能が使えます。

タイマー動作
アンプ・チューナーの時計機能を使って、ソース機器(CDプレーヤー、カセットデッキ、MDレコーダー)のタイマー再生、タイマー録音ができます。

アビーノSG-7シリーズのシリーズ構成

R-SG7(アンプ・チューナー)　X-SG7(カセットデッキ)
DP-SG7(CDプレーヤー)　DM-SG7(MDレコーダー)

取扱説明書について

アビーノSG-7シリーズの中にはR-SG7(アンプ・チューナー)、DP-SG7(CDプレーヤー)、X-SG7(カセットデッキ)を説明したシステム説明書が付属している機種と、お買い上げの機種だけ(単独)の説明書が付属している機種があります。これは、別売の機器を後でお買い上げになっても、システム操作が簡単にできるように説明されているためです。お買い上げの機種にあわせて、必要な部分だけをお読みください。
なお、アビーノSG-7シリーズのうち、DM-SG7(MDレコーダー)につきましては、接続のしかただけをシステム説明書で説明しています。詳しい操作のしかたにつきましては、DM-SG7に付属の取扱説明書をご覧ください。

機類名 (お買い上げの機種名)	付属する取扱説明書 (説明している機種名)
基本システム (R-SG7、DP-SG7)	システム説明書(R-SG7、DP-SG7、X-SG7)
アンプ・チューナー (R-SG7)	システム説明書(R-SG7、DP-SG7、X-SG7)※
CDプレーヤー (DP-SG7)	単独説明書(DP-SG7)
カセットデッキ (X-SG7)	単独説明書(X-SG7)
MDレコーダー (DM-SG7)	単独説明書(DM-SG7)

※ システム説明書は、基本システム(R-SG7、DP-SG7)およびアンプ・チューナー(R-SG7)に付属しています。アンプ・チューナー(R-SG7)を単独でお買い上げの場合、CDプレーヤー(DP-SG7)は別売となりますのでご了承ください(説明文中では表記していません)。

目次

はじめに 2
もくじ 3
本機の特徴 4

安全編 安全にお使いいただくために

⚠安全上のご注意 5

準備編 音を出す前に

接続のしかた 11
アンテナの接続 11
オーディオコードの接続 12
スピーカーの接続 14
システムコントロールコード・電源コードの接続 15
各部のなまえと働き 16
本体部 16
リモコン部 18
リモコンの使いかた 19

基礎編 「聴く」、「録る」の基本です

音を出してみましょう 20
基本的な使いかた 20
CDを聴く 22
テープを聴く 24
ラジオ放送を聴く 28
録音してみましょう 30
録音のしかた 30

応用編 楽しさが広がります

CDを聴く 33
曲順を並べ替えて聴く(プログラム再生) 33
繰り返し聴く(リピート再生) 35
予期しない曲順を楽しむ(ランダム再生) 36
便利なCD録音 37
便利なCD録音のタイプを選ぶ 37
テープの長さに応じて曲順を入れ替える(タイム編集録音) 38
いい曲があれば、その曲だけ録音する(ワンタッチエディット1曲録音) 39
一枚のCDをワンタッチで録音する(ワンタッチエディット全曲録音) 40
高音質で聴く(ピュアA) 41
ピュアAモードで聴く 41
時刻合わせ 42
タイマーを使う 43
オペレート イージー トゥー ユース タイマー(O.T.T.) 43
おやすみタイマー 43
プログラムタイマー予約 44

知識編 知っていると何かと便利です

知っておきましょう 47
ディスクとテープの取り扱いかた 47
メンテナンス 48
参考 49
故障かな?と思ったら‥‥ 50
定格 53
保証とアフターサービス(よくお読みください) 55

本機の特徴

■ 高音質低ひずみを追求したアンプ部

● **小音量時の高音質モード "ピュア A"**

セットのそばで聴くときや、夜間など小音量で聴くときは、純A級動作モード（ピュアA）にすることをおすすめします。滑らかな高音質をお楽しみいただけます。大きめの音量で聴くときは、通常のモードでお楽しみください。

■ 音質と安定性を追求したCDプレーヤー部

● **新開発の D.R.I.V.E. IC を搭載**

微小レベルでのひずみを飛躍的に改善するD.R.I.V.E.（Dynamic（ダイナミック） Resolution（リゾリューション） Insentive（インセンティブ） Vector（ベクター） Enhancement（エンハンスメント））ICを搭載して、CD の可能性を最大限に引き出します。

■ 便利で簡単な操作

● **イージーオペレーション**

アピーノシリーズをシステムコントロール接続すると、R-SG7の入力切換キーで入力（TAPE, TUNER, CD, MD）を切り換えるだけで、選んだ機器が再生を始めます。逆に、目的の機器を再生させると、入力切り換えが自動的にその機器に切り換わります。

● **CD TEXT 対応**

CDテキストが記録されているディスクのタイトル、曲名がMDプレーヤー（DM-SG7/別売）に表示されます。

● **便利な編集録音**

タイム編集録音：指定時間内に曲がとぎれないように録音します。
ワンタッチエディット機能：CDを聴いていて、好きになった曲だけワンタッチでテープに録音したり、1枚まるごとワンタッチで録音できます。

● **カンタン操作のタイマー**

目覚ましタイマー、おやすみタイマーが簡単にセットできます。
毎日働くプログラムタイマーも予約しておけます。

付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

R-SG7で使用する付属品
（R-SG7を単独でお買い上げのときは、この付属品のみ付属しています。）

AM ループアンテナ（1個）　AMループアンテナスタンド（1個）

FM 室内アンテナ（1本）

リモートコントロールユニット（1個）

リモコン用乾電池（R6/SUM-3）（2本）

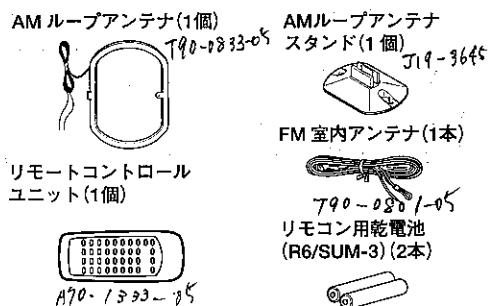
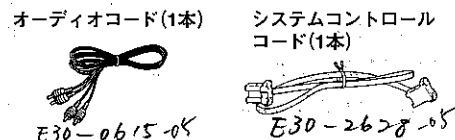
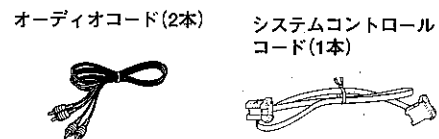
DP-SG7で使用する付属品＊

オーディオコード（1本）

システムコントロールコード（1本）

X-SG7（別売）に付属する付属品

オーディオコード（2本）

システムコントロールコード（1本）

＊基本システム（R-SG7、DP-SG7）をお買い上げのときは、DP-SG7で使用する付属品はR-SG7の箱に入っています。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書（安全編）では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

⚠ 警告　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⦸記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります。）

交流100ボルト以外の電圧で使用しない

この機器は、交流100ボルト専用です。
指定以外の電源電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

放熱に注意

設置の際は、壁から10cm以上離してください。
機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔ですので、ふさがないようにご注意ください。

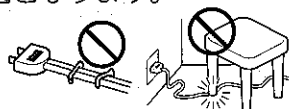
- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 風通しの悪い狭い所に押し込まない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上において使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

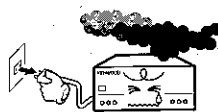
風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

電源コードの取扱い

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定しないでください。また、電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は

煙が出たり、変な臭いや音がする場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

電源プラグは清潔に

電源プラグの刃および刃の付近に埃や金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

ケースを絶対に開けないでください

機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。
内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス拠点にご依頼ください。

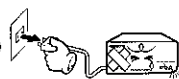
機器の内部に水や異物を入れない

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かないでください。こぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に水や異物などが入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

落下した機器は使わない

機器を落としたり、カバーやケースがこわれた場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

雷が鳴り始めたら

アンテナ線や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

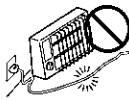
電池は放置しない

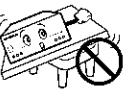
電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。ボタン電池など小型の電池は特にご注意下さい。
電池をあやまって飲み込むおそれがあります。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

乾電池は充電しない

乾電池は充電しないでください。
電池の破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

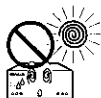
電源コードを熱器具に近付けない

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近付けないでください。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

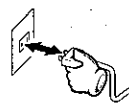
温度の高い場所には置かない

窓を閉めきった自動車の中や、直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

電源プラグの抜き差しは

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。
発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

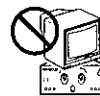
電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
差し込みが不完全ですと発熱したり埃が付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

長期間使用しないときは

旅行などで長期間、ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災の原因となることがあります。

指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。
指定以外のコードを使用したりコードを延長すると発熱し、やけどの原因となることがあります。

指定機器以外の物を乗せない

この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

アンテナ工事

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

機器に乗らない

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

指をはさまない

お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に手を入れないようご注意ください。
指がはさまれて、けがの原因となることがあります。

レーザー光源はのぞかない

レーザー光源をのぞき込まないでください。
レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

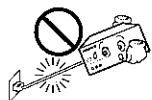
ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

音量に気をつけて

はじめに音量（ボリューム）を最小にしてください。
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにしてください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動させる際は

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

電池の取扱い

電池は誤った使い方をすると、破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示（プラス"+"とマイナス"-"の向き）に注意し、表示通りに入れてください。

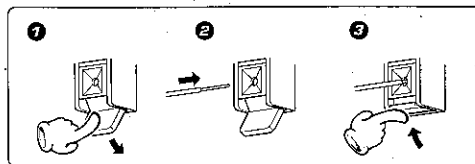
- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

お手入れの際は

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電の原因となることがあります。

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。もよりの販売店、またはケンウッド営業所に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

1.アンテナの接続

アンテナは、図のように接続します。
接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

⚠注意　屋外アンテナ設置上のご注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

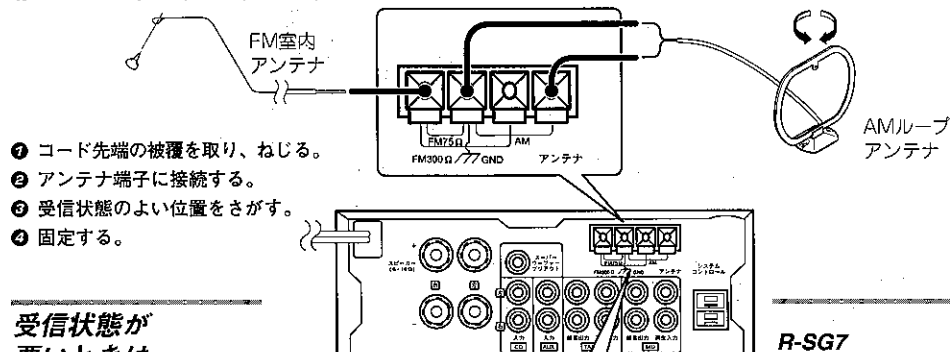
付属アンテナの接続

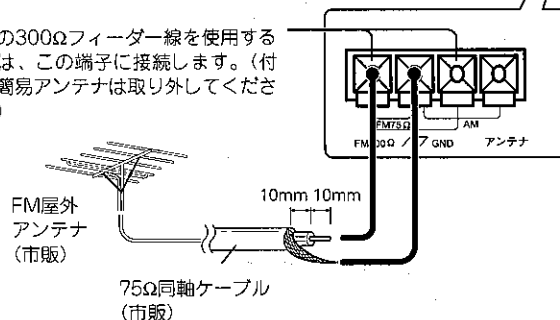
FM室内アンテナ

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナ（市販）の接続をお勧めします。屋外アンテナを接続したら、簡易アンテナは取り外してください。

AMループアンテナ

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで、受信状態の一番よい方向に向けます。

❶ コード先端の被覆を取り、ねじる。
❷ アンテナ端子に接続する。
❸ 受信状態のよい位置をさがす。
❹ 固定する。

受信状態が悪いときは

市販の300Ωフィーダー線を使用するときは、この端子に接続します。（付属の簡易アンテナは取り外してください。）

FM屋外アンテナ

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引込み、FM75Ω端子に接続します。屋外アンテナを接続したら、簡易アンテナは取り外してください。

2.オーディオコードの接続

ここでは、システム接続することを考慮して、別売の機器の接続もあわせて説明しています。お買い上げの機器に合わせて正しく設置し、必要なコードを接続してください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに動作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、"故障かな？と思ったら..."を参照してマイコンをリセットしてください。 →50

光ファイバーケーブルの接続について

デジタル接続に使用します。デジタル伝送により、CDの高音質を損なうことなく録音できます。

必要に応じて、キャップをはずし、光ファイバーケーブルを接続してください。

⚠注意

接続のご注意

接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。
機器の接続は、図のように行なってください。

⚠注意　設置のご注意

過熱による火災の原因となりますのでセットの積み重ねは図のように行ってください。
- R-SG7を一番上に設置してください。
- 放熱の妨げになるものを天板の上に置かないでください。

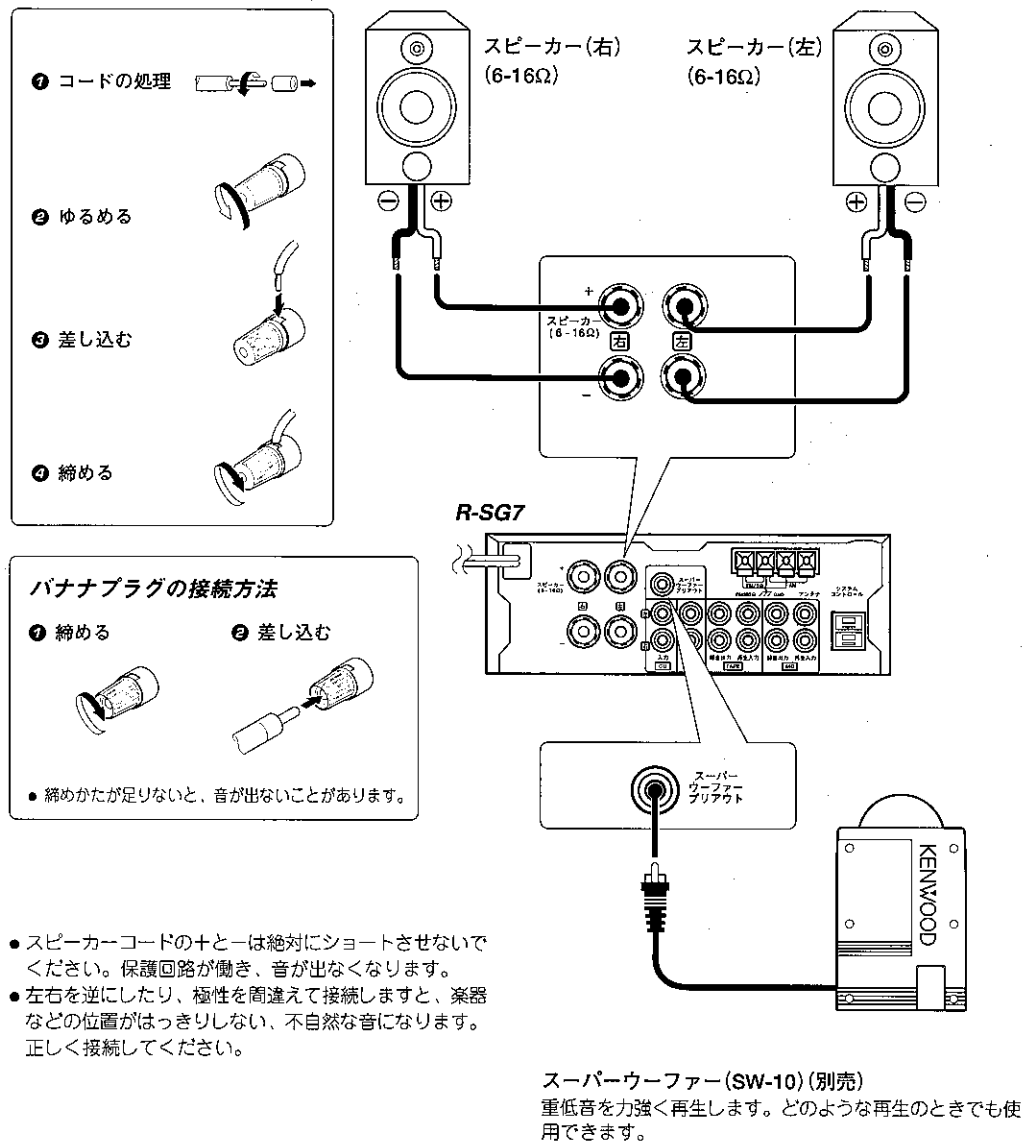
メモ

1. 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も、合わせてご覧ください。
2. 光ファイバーは真っ直ぐに、カチッと音がするまで差し込んでください。
3. デジタル端子を使わないときは、必ず保護キャップを付けておいてください。
4. 光ファイバーケーブルは、絶対に折り曲げたり、束ねたりしないでください。

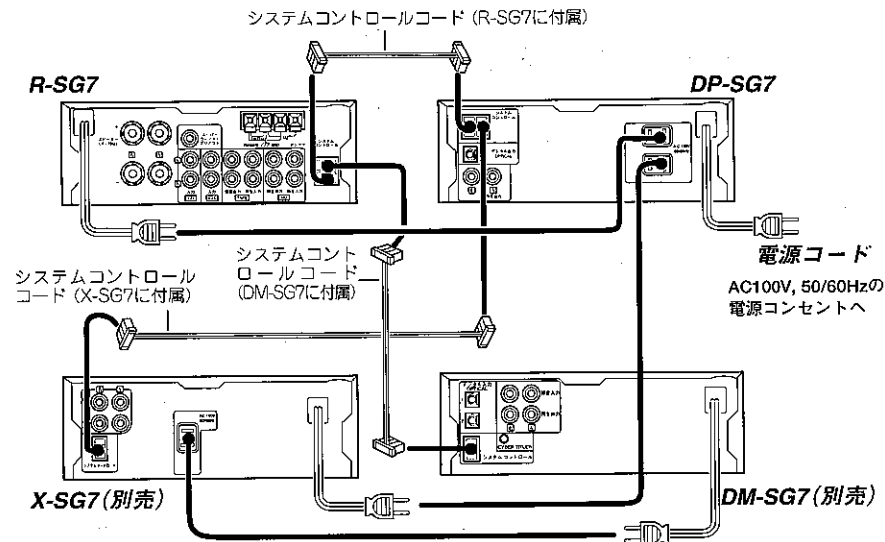
3.スピーカーの接続

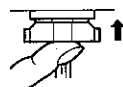
スピーカーは、図のように接続します。
接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

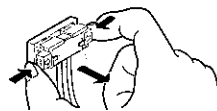
- スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。保護回路が働き、音が出なくなります。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりしない、不自然な音になります。正しく接続してください。

スーパーウーファー(SW-10)(別売)
重低音を力強く再生します。どのような再生のときでも使用できます。

4.システムコントロールコードと電源コードの接続

システムコントロールコードと電源コードは、図のように接続します。

システムコントロールコード (R-SG7に付属)
R-SG7
DP-SG7
システムコントロールコード (X-SG7に付属)
システムコントロールコード (DM-SG7に付属)
電源コード
AC100V, 50/60Hzの電源コンセントへ
X-SG7(別売)
DM-SG7(別売)

システムコントロールコードの接続

コネクターを差し込む

カチッと音がするまで平行に差し込み、ロックする

コネクターを抜く

コネクター部分の両端を押しながらまっすぐに引き抜く

電源コードの接続

電源コード以外のすべての接続が終了してから、電源コードのプラグをコンセントに差し込んでください。

- 基本システムの他に、別売のMDレコーダー(DM-SG7)だけをお買い上げのかたは、DM-SG7の電源コードをDP-SG7の背面にあるACコンセントに差し込んでください。

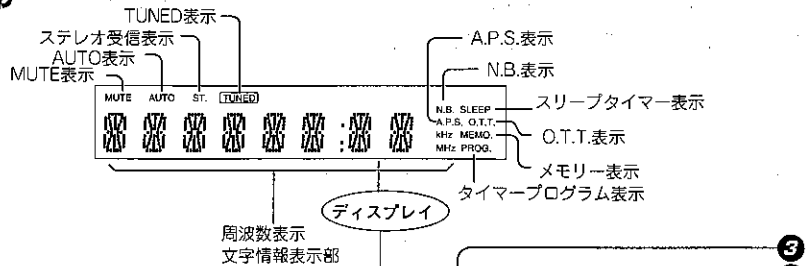
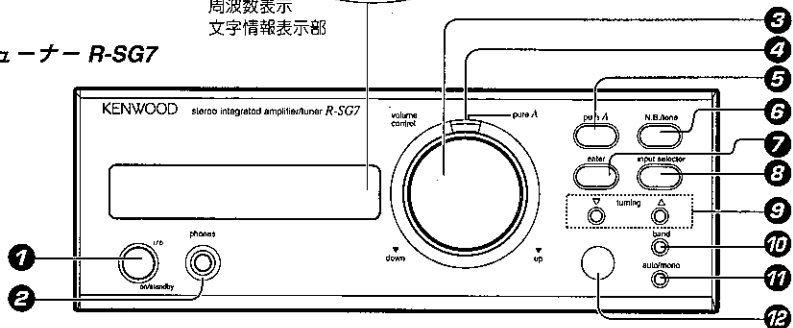
⚠警告 ACコンセント

背面のACコンセントが供給できる電力はそれぞれ200W(DP-SG7)、100W(X-SG7)までです。接続する装置の消費電力の合計が200W(DP-SG7)、100W(X-SG7)を超えないようにしてください。火災の原因になります。
電熱器具、ヘヤドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。
また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。

メモ

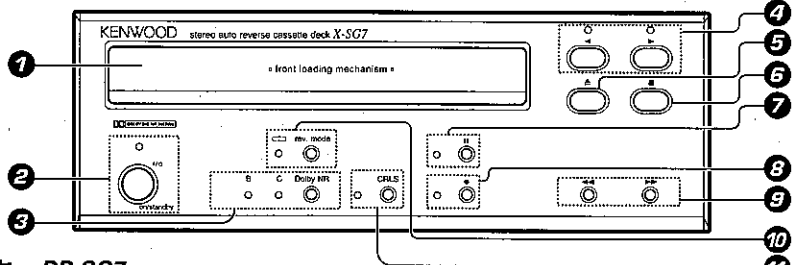
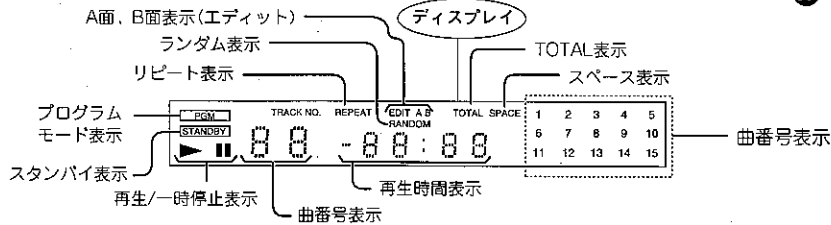
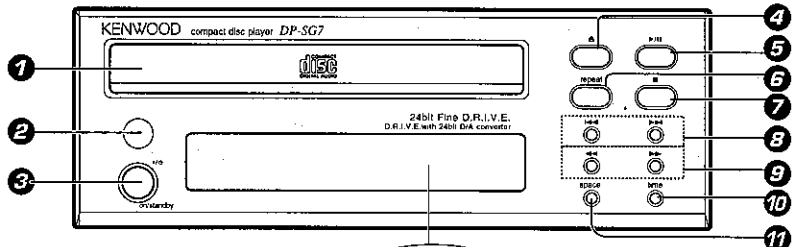
1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音がでなくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かずに接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因となります。

本体部

TUNED表示
ステレオ受信表示
AUTO表示
MUTE表示
A.P.S.表示
N.B.表示
スリープタイマー表示
O.T.T.表示
メモリー表示
タイマープログラム表示
ディスプレイ
周波数表示
文字情報表示部

アンプ・チューナー R-SG7

カセットデッキ X-SG7(別売)

CDプレーヤー DP-SG7

A面、B面表示(エディット)
ランダム表示
リピート表示
ディスプレイ
TOTAL表示
スペース表示
プログラムモード表示
スタンバイ表示
再生/一時停止表示
曲番号表示
再生時間表示
曲番号表示

アンプ・チューナー R-SG7

❶ I/⏻(on/standby)キー →20
電源のオン/オフ(スタンバイ)を切り換えます。システム接続しているときは、システム全体の電源のオン/オフを切り換えます。

❷ "phones"端子 →21
ステレオミニプラグのヘッドホン(別売)を接続します。

❸ "volume control"つまみ →20
通常は、音量の調節に使います。タイマー予約や、時刻合わせにも使います。

❹ ピュアAインジケーター →41
ピュアAモードのときに点灯します。

❺ "pure A"キー →21 →41
電源オンのとき：ピュアAモードのオン/オフを切り換えます。
電源オフのとき：A.P.S.(オートパワーセーブ)のオン/オフを切り換えます。

❻ "N.B./tone"キー →21
音質の補正に使います。

❼ "enter"キー →21 →29 →42
TONE調整や放送局のプリセット、時刻合わせ、タイマー設定などに使います。

❽ "input selector"キー →20
入力ソースを選びます。TAPE、CD、MDを選んだとき、すでにテープやディスクがセットされていれば、自動的に再生が始まります。

❾ "tuning"(△ ▽)キー →28
電源オンのとき：放送局の選択に使います。
電源オフのとき：タイマー予約に使います。
△キー：プログラムのオン/オフ →46
▽キー：O.T.T.予約 →43

❿ "band"キー →28
電源オンのとき：放送バンドを切り換えます。
電源オフのとき：タイマー予約に使います。

⓫ "auto/mono"キー →28 →42
電源オンのとき：選局モードの切り換えに使います。
電源オフのとき：時刻合わせに使います。

⓬ リモコン受光部 →19
R-SG7のシステムリモコン(RC-R0713)を使用するときに使います。

カセットデッキ X-SG7

❶ テープトレイ →24
カセットテープを収納します。

❷ I/⏻(on/standby)キー/スタンバイインジケーター
電源のオン/オフ(スタンバイ)を切り換えます。システム接続しているときは、使用しません。

❸ Dolby NRキー/インジケーター →25
ドルビーノイズリダクションのオン/オフを切り換えます。

❹ 再生キー(◄ ►)/動作インジケーター →24
停止、一時停止時：走行方向が赤く点灯します。
再生、録音時：緑色に点灯します。
早送り、早戻し時：緑色に点滅します。

❺ オープン/クローズキー(▲) →24
テープを出し入れするときに、テープトレイを開きます。

❻ 停止(■)キー →25

❼ 一時停止(II)キー/インジケーター →25

❽ 録音(●)キー/インジケーター →31
録音を始めます。録音中に押すと、約4秒間の無音部分(アキ)を作ってから停止します。

❾ 早送り、早戻し(◄◄ ►►)キー →25

❿ "rev. mode"キー/インジケーター →25
デッキのリバースモード(両面、片面)を切り換えます。

⓫ CRLSキー/インジケーター →32
録音する音楽ソースに合わせて、録音レベルを自動設定します。

CDプレーヤー DP-SG7

❶ ディスクトレイ →22
CDを収納します。

❷ リモコン受光部
DP-SG7に付属のリモコン(RC-R0713)を使用するときに使います。システム接続しているときは、使用しません。

❸ I/⏻(on/standby)キー
電源のオン/オフ(スタンバイ)を切り換えます。システム接続しているときは、使用しません。

❹ オープン/クローズキー(▲) →22
ディスクトレイを開閉します。

❺ 再生/一時停止キー(►/II) →22

❻ "repeat"キー →35
CDを繰り返し再生するときに使います。

❼ 停止(■)キー →23

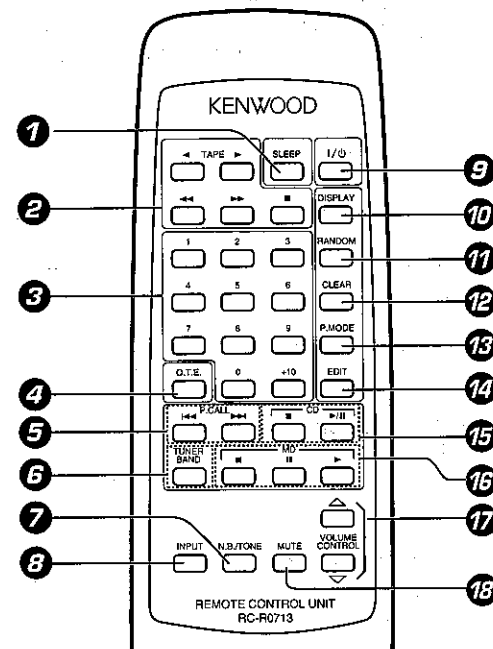
❽ スキップ(I◄◄ ►►I)キー →23

❾ 早送り、早戻し(◄◄ ►►)キー →23

❿ "time"キー →23
CDの時間表示を切り換えます。

⓫ "space"キー →34
プログラム再生のときに、曲間に数秒間の無音部分を作ります。

リモコン部(RC-R0713)

システムコントロールコードを接続することにより、本リモコンでシステム全体を操作できます。
リモコンのキーのうち本体部と同じ名前のキーは、本体部と同じ働きをします。

❶ **SLEEPキー** →43
おやすみタイマーを設定するときに使います。

❷ **カセットデッキ操作キー** →24
カセットデッキ(X-SG7)を操作するときに使います。

❸ **数字キー** →23 →29
入力切換がCDまたはMDのとき、数字キーとして使います。入力切換がチューナーのとき、プリセットした放送局を呼び出します。

❹ **O.T.E.キー** →39
CDまたはMDの再生中に押すと、そのとき再生している曲だけをテープへ録音します。停止中に押すと、CDまたはMDを1曲目から録音します。

❺ **⏮ ⏭ キー** →23 →28
(スキップ/プリセットコール)
チューナーのとき：
プリセットコールキーとして使います。
CDまたはMDのとき：
スキップキーとして使います。

❻ **BANDキー** →28
チューナーの放送バンドを切り換えます。

❼ **N.B./TONEキー** →21
音質の補正に使います。

❽ **INPUTキー** →20
入力ソースを選びます。TAPE、CD、MDを選んだとき、すでにテープやディスクがセットされていれば、自動的に再生が始まります。

❾ **I/⏻(on/standby)キー** →20
アンプ・チューナー(R-SG7)の電源のオン/オフ(スタンバイ)を切り換えます。システム接続しているときは、システム全体の電源のオン/オフを切り換えます。

❿ **DISPLAYキー** →29
アンプ・チューナー(R-SG7)の表示内容を切り換えます(時計表示 ⟷ 入力表示)。

⓫ **RANDOMキー** →36
CDまたはMDの曲がランダム(無作為)に選択されます。

⓬ **CLEARキー** →34
CDのプログラム再生の内容を最後から1曲ずつ消去します。

⓭ **P.MODEキー** →33
CDの再生曲順をプログラムするときに使います。

⓮ **EDITキー** →38
CDの編集録音(タイム編集録音)のときに使います。

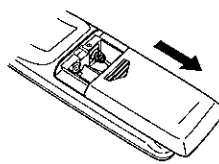
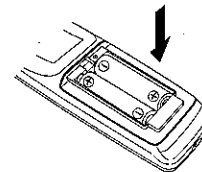
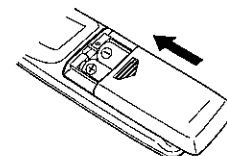
⓯ **CD操作キー** →22
CDプレーヤーを操作するときに使います。

⓰ **MD操作キー**
MDレコーダー(DM-SG7)を操作するときに使います。

⓱ **VOLUME CONTROLキー** →20
本体部のボリュームコントロールつまみと同じ働きをします。ただし、AIボリュームは働きません。

⓲ **MUTEキー** →21
一時的に音を消すときに使います。

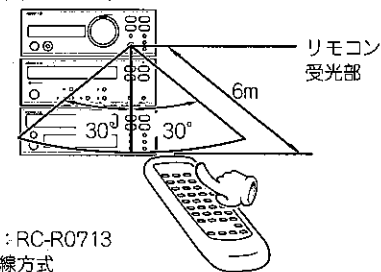
電池の入れかた

❶ カバーを開く

❷ 電池を入れる

❸ カバーを閉める

● 単3乾電池 (R6/SUM-3) 2個を極性マークに従って入れる。

操作のしかた

すべての電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンのI/⏻(on/standby)キーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。

● リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

操作範囲のめやす

リモコン受光部
6m
30°
30°

型名：RC-R0713
赤外線方式

メモ
1. 付属の乾電池は動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、2個とも新しい電池と交換してください。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式等)の蛍光灯の光が当ると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

基本的な使いかた

1. 電源をオンにする(オフにする)

電源がオンのときにI/⏻(on/standby)キーを押すとオフになります。

- システム全体のオン/オフができます。リモコンのI/⏻(on/standby)キーも、同じ働きをします。
- 電源がオフのときは、表示部が暗くなります。(ディマー機能)

input selector

2. 聴きたいものを選ぶ

① チューナー →28
② CD →22
③ テープ →24
④ MD
⑤ AUX

- CD、TAPE、MDを選んだとき、すでにディスクやテープが入っている場合は、再生が始まります。

MDはMDレコーダー(DM-SG7)の取扱説明書をご覧ください。

3. 音量を調節する

- 早く回すと、変化量が大きくなります。(AI ボリューム機能)
- 表示部に目安の数字が表示されます。

一時的に音を消す (リモコンのみ)

- もう一度押すと、元の音量に戻ります。
- 音量を操作したときも解除されます。

ヘッドホンで聴く

❶ ヘッドホンのプラグをphones(ホンズ)端子に差し込む

- ステレオミニプラグ付きのヘッドホンを使用します。
- スピーカーから音が出なくなります。

❷ 音量を調節する →20(手順3)

低音と高音を補正する (N.B. : Natural Bass circuit(ナチュラル ベース サーキット))

押すたびに表示が切り換わります。

① NB ON 1 .... 音量にあわせて高音域と低音域を補正(小音量時に有効です)
② NB ON 2 .... 音量にあわせて低音域を補正
③ TONE FLAT (TONE)(トーン フラット(トーン)) ... 音質を変えることができます。

"TONE"を調整する

❶ N.B./toneキーを押して"TONE FLAT"("TONE")を表示させる
❷ "TONE FLAT"("TONE")表示中にENTER(エンター)キーを押す

押すたびに表示が切り換わります。

① BASS(バス) .... 低音を調節する
② TREBLE(トレブル) ... 高音を調節する

- VOLUMEつまみでそれぞれ－10～＋10の範囲で調節できます。(各±0の時の表示は"TONE FLAT"、TONE調整が行われた場合"TONE"を表示)

CDを選んだとき　R-SG7

CD

音量の表示　R-SG7

VOL　20

オートパワーセーブ機能について

電源がオンで、録音も再生もしていない状態のとき、30分以上放置すると自動的に電源がオフになる機能です。この機能は、次の操作で、使う/使わないを選べます。

pure A

電源がオフのときに押す

押すたびに表示が切り換わります。

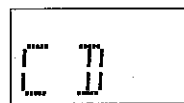
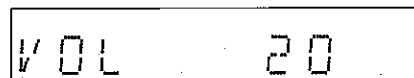
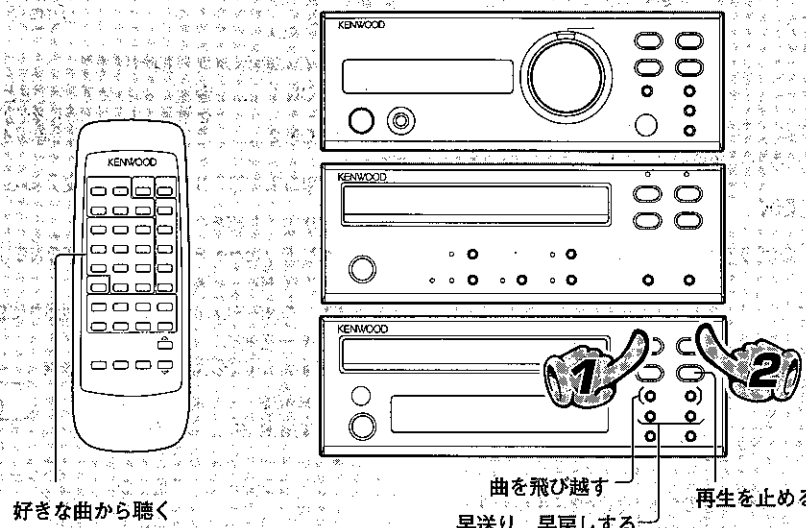
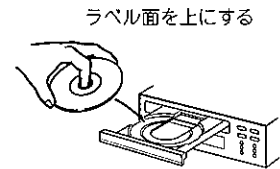
① APS ON(オートパワーセーブオン).....オートパワーセーブを使う
② APS OFF(オートパワーセーブオフ)... オートパワーセーブを使わない

- 入力切換がチューナーのときは、音量がゼロのときに限り働きます。

パワースイッチのスタンバイについて

本システムではスタンバイ状態(R-SG7が時刻表示、DP-SG7がSTANDBY表示、X-SG7がスタンバイインジケーター点灯)のときは、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。
このとき、リモコン操作によっても電源のオンができます。

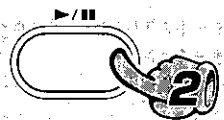
CDを聴く

好きな曲から聴く　曲を飛び越す　早送り、早戻しする　再生を止める

1. ディスクを入れる

キーを押すとトレイが開き、もう一度押すと閉まります

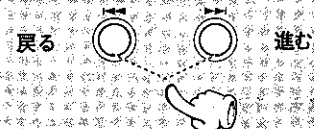
❶ トレイを開ける
❷ ディスクを入れる
❸ トレイを閉める

ラベル面を上にする

2. 再生をはじめる

電源がオンのときに、CDプレーヤーにあらかじめディスクを入れておくと、入力切換をCDにするだけで再生が始まります。

レンタルCDソフトシール粘着糊注意

ディスクにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、剥がしたあとがあるものは、お使いにならないでください。そのまま再生すると、ディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

曲を飛び越す

- 押した方向に飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。
- 再生中に |◄◄ キーを押すと、その曲の最初に戻ります。
- さらに前の曲にスキップするときは素早く |◄◄ キーを押します。

好きな曲から聴く

曲を選ぶ

数字キーを押す順序は
23曲目なら [+10] [+10] [3]
40曲目なら [+10] [+10] [+10] [+10] [0]

● 再生面には、触れないようにします。

収録されている曲

DP-SG7

● 数秒後に1曲目から再生します。

⚠注意

レーザー光源をのぞかない

レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

早送り・早戻しする

- 手を離したところから再生します。

一時停止する

- 押すたびに、一時停止と再生が切り換わります。

再生を止める

CDプレーヤーの時間表示について

"time"キーを押すたびに、ディスプレイの表示が切り換わります。　time

① 1:23　再生中の曲の経過時間
② -2:37　再生中の曲の残り時間
③ TOTAL 23:45　ディスク全体の経過時間
④ TOTAL -36:15　ディスク全体の残り時間

- エディットモードとランダムモードでは、再生中の曲の表示のみです。

CD TEXT 機能について

CDテキスト(タイトル名や曲名、アーチストなどの情報)が記録されているディスクを入れたとき、別売のMDプレーヤー(DM-SG7)と接続すると、MDプレーヤーにディスクのタイトル、曲名(英数字のみ)が表示されます。詳しくはDM-SG7(別売)の取扱説明書をお読み下さい。

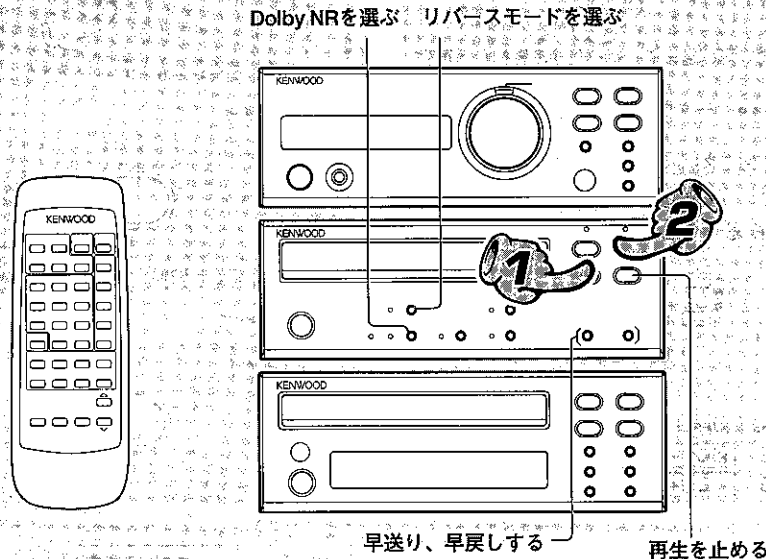
テープを聴く

1. カセットテープを入れる

❶ トレイを開ける
❷ テープを入れ、トレイを閉める

2. 再生する

再生したい走行方向のキーを押します。

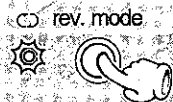
走行方向の表示が緑色に点灯します

電源がオンのときにカセットデッキにあらかじめテープを入れておくと、入力切換をTAPEにするだけでカセットデッキの再生が始まります。

一時停止する

- キーの左のインジケーターが点灯します。
- 再生を再開するときは、再生キーを押します。

早送り・早戻しする

- 早送りを止めるときは、■ キーを押してください。

リバースモードを選ぶ

押すたびに切り換わります。

①"⊂⊃"点灯... 両面をエンドレス再生する（両面を録音して止まる）
②消灯 .... 片面のみを再生(録音)して止まる

再生を止める

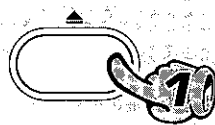
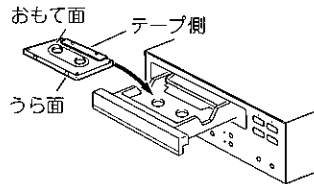
- 走行方向の表示が赤色に点灯します。

ドルビー NRを選ぶ

ドルビーNRシステムは、テープを聴くときの"サー"というヒスノイズをできるだけ聞こえにくくするためのシステムです。

押すたびに切り換わります。

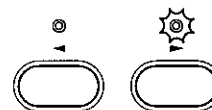
① "B" 点灯....ドルビーB NRを使う
② "C" 点灯....ドルビーC NRを使う
③ "B" "C" 消灯....ドルビー NRを使わない

- ドルビー NR をオンにして録音したテープを再生するときは、録音したドルビー NRを選んで再生してください。

100分以上のテープは大変薄く、ピンチローラーに巻きついたり、切れたりトラブルが発生しやすいので、ご使用はお避けください。

- テープは、図のように正しく入れてください。間違った入れ方をすると、故障の原因となります。
- ノーマル(TYPE Ⅰ)、ハイ(TYPE Ⅱ)、メタル(TYPE Ⅳ)のテープ選択は、自動設定されます。
- テープは、たるみのない状態にしてください。

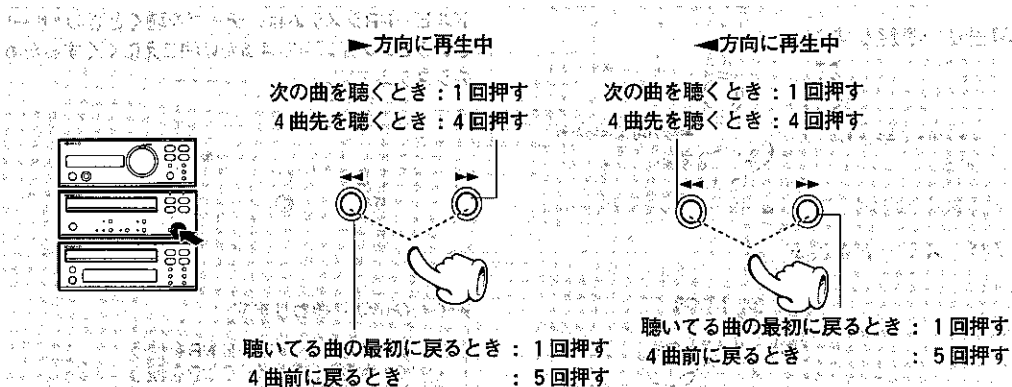
走行方向表示について

イージーオペレーションなどで、再生や録音が自動スタートするときの、テープが進む方向を、◄, ► インジケーターの点灯で示します。最後にテープを止めたときの方向が記憶されます。
（向きを変えるときは、再生したい方向のキーを押してから ■ キーを押します。）

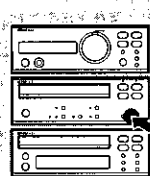
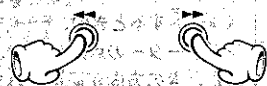
走行方向表示

DPSS

DPSS(ダイレクト・プログラム・サーチ・システム)で、4秒以上の無録音部分を「曲間」として探し出して、カセットテープをCDのように手軽に操作できます。

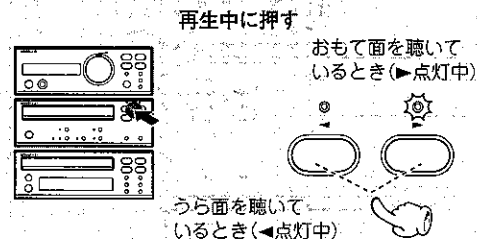
飛び越し選曲

曲の頭出しをしたり、途中の曲を飛び越して、目的の曲の最初から再生することができます。最大16曲まで飛び越せます。

無音部分を早送りして聴く(ダッシュ＆プレイ)

再生中に10秒以上の無音があると、その部分を自動的に早送りし、音声のある部分だけを再生します。

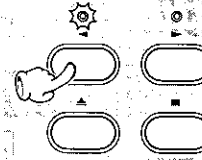
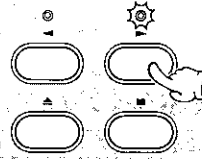
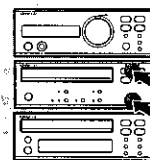
本体のみ

- リバースモードの状態で動作が変わります。
  - ① "⊂⊃"点灯.. 両面を8回繰り返し再生して止まる
  - ② 消灯 片面のみを8回繰り返し再生して止まる
- 停止キーを押すと再生が停止し、ダッシュ＆プレイは取り消されます。

同じ曲を繰り返し聴く(1曲リピート)

同じ曲を16回繰り返して再生します。

- そのとき聴いている曲を、16回繰り返して再生し、通常の再生に戻ります。
- 停止キーを押すと再生が停止し、1曲リピートは取り消されます。

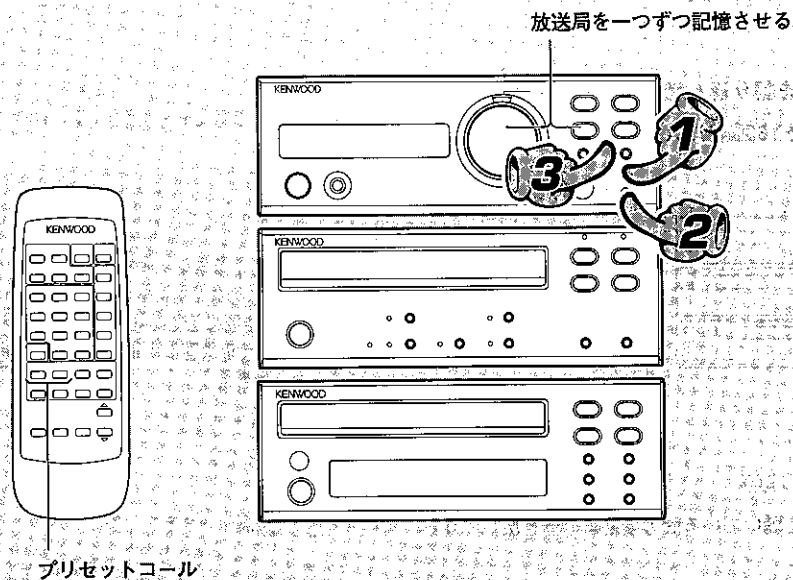
巻き戻し再生

そのとき聴いている面の最初まで巻き戻してから、再生が始まります。

本体のみ

次のようなテープでは、DPSS機能が正常に動作しません。

- 会話、落語などで音声が4秒ぐらい途切れるテープ
- クラシック音楽など、1曲の中に、音量が極端に小さくなるところのあるテープ
- 曲間に、大きな雑音などが録音されているテープ
- 曲間が4秒未満のテープ
- 小さな音で録音されたテープ
- クロスフェード録音(前曲の最後に、次曲の最初が重なっていること)されたテープ

ラジオ放送を聴く

放送局を最大40局まで記憶させ、ワンタッチで受信できます。

放送局を一つずつ記憶させる(プリセット)

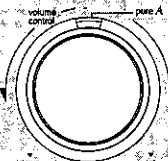
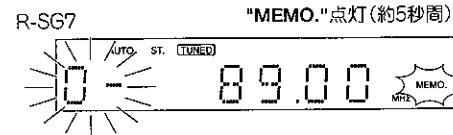
❶ 受信中に"enter"キーを押す

途中で5秒以上放置すると、プリセットは中止されます。

R-SG7 "MEMO."点灯(約5秒間)

❷ 1～40の"プリセット番号"を任意に選ぶ

途中で5秒以上放置すると、プリセットは中止されます。

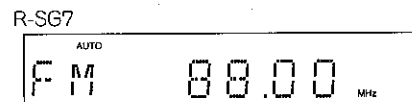
R-SG7 消灯

❸ もう一度"enter"キーを押す

- プリセットを続けるときは、手順❶,❷,❸を繰り返します。
- 同じ番号を重ねて記憶させると、新しい設定内容に変更されます。

1. 受信バンドを選ぶ

band

押すたびに切り換わります。

① FM
② AM

R-SG7

2. 放送局を選ぶ(先にプリセットすることをおすすめします)

→29

P.CALL リモコン

放送局を選ぶ

放送局を記憶させた場合(プリセットコール)

キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

▶▶|を押すと... 1 → 2 → 3 ..... 38 → 39 → 40 → 1 .....
|◀◀を押すと... 40 → 39 → 38 ..... 3 → 2 → 1 → 40.....

- 押したままにすると、約0.5秒間隔で放送局をスキップします。
- リモコンの数字キーで数字を入力しても、プリセットコールができます。入力のときに、10の桁を押し間違えた場合は、+10キーを数回押し、もとの表示に戻してから入力し直してください。

放送局を記憶させていない場合

電波の強弱の状態により選局モードを切り換えます。

電波状態が良いとき：オート選局モード(ステレオ受信)
電波が弱く雑音が多いとき：マニュアル選局モード(モノラル受信になります)

❶ auto/mono

❶ オート選局とマニュアル選局を切り換える

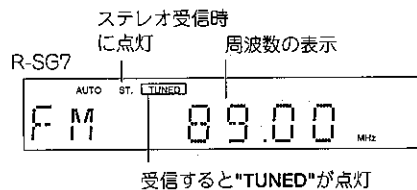
押すたびに切り換わります。

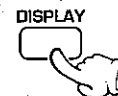
① "AUTO"点灯 (オート選局)
② 消灯 (マニュアル選局)

- 通常はAUTO(オート選局)にしておきます。

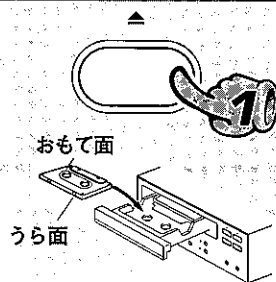
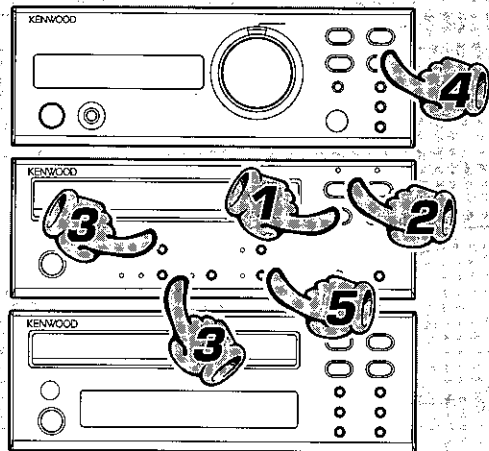
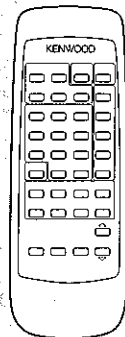
❷ 周波数が下がる ▽ tuning △ 周波数が上がる

❷ 選局をする

オート選局のとき：押すたびに次の放送局を受信します。
マニュアル選局のとき：希望する放送局を受信するまで押します。

チューナー受信時のディスプレイの切り換えについて(リモコンのみ)

DISPLAYキーを押すたびにディスプレイの表示が切り換わります。

① 受信バンド・周波数
② プリセット番号・周波数
③ 時計

録音のしかた

メモ 本機はメタルテープでの録音はできませんのでご注意ください。

1. カセットデッキにテープを入れる

❶ カセットデッキのトレイを開く
❷ テープを入れる
❸ トレイを閉める

- ノーマル(TYPE Ⅰ)、ハイ(TYPE Ⅱ)のテープの種別は、自動設定されます。
- テープは、たるみのない状態で入れてください。

メモ 100分以上のテープは大変薄く、ピンチローラーに巻きついたり、切れたりトラブルが発生しやすいので、ご使用はお避けください。

2. テープの進む向きを選ぶ

走行方向表示を確認する

❶ 再生したい方向の再生キーを押す(緑点灯)
❷ 停止する(赤点灯)

- 録音を始めたとき、この手順で選んだ方向にテープが進みます。
- テープの頭出し(録音を始める位置をさがすこと)をしておきます。

3. 録音条件を決める

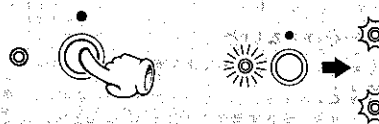
❶ リバースモードを選ぶ →25
❷ ドルビー NRを選ぶ →25

R-SG7/DP-SG7/X-SG7 [JA]

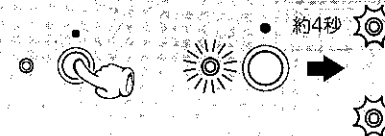
録音を一時停止する

- 録音を再開するときは、録音キーを押します。

録音を中断するには

録音を中断した直後に約4秒間の無音部分をつくります。

- 約4秒後に録音ポーズ状態になります。

約4秒間の無音部分をつくる(オートレックミュート)

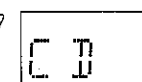
❶ 停止状態にする
❷ 録音キーを2回押す

- 約4秒間の無音部分をつくり、録音ポーズ状態になります。

録音をおわるには

4. 何を録音するか選ぶ

TAPE以外を選んでください。

録音したい入力ソースの表示にします。

R-SG7 CD

- CDを選んだ場合、すでにディスクがセットされているときは、再生が始まります。

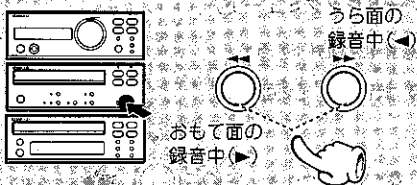
5. 録音をスタートさせる

❶ 録音したい入力ソースを再生(受信)する
❷ 録音を始める

- CRLS機能を使用すると、録音レベルの自動調整ができます。 →32
- 録音する面(片面または両面)が終了すると、自動的に停止します。

録音をやり直したいとき

録音開始位置に戻ります。

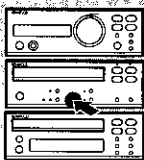
録音中に早戻しキーを押す

- 録音が中止され、テープは図のように巻き戻されます。(録音開始位置の手前に4秒以上の無音部分がある場合)

約2秒送って止まる
録音済みの曲　今回の録音
録音やり直し
4秒以上の曲間

- 録音済みの曲が手前にない場合は、テープを巻き取って止まります。

録音レベルを自動調整する(CRLS)

カセットデッキ(X-SG7)には、標準的な録音レベルがあらかじめ設定されていますが、CRLS機能を使うと、音楽ソースに最適の録音レベルを自動的に設定します。

❶ 録音したい内容を再生する
(目的の放送局を受信する)
❷ CRLSキーを押す

約20秒

一度もキーを押さないと...
当社が設定した基本レベルで録音されます。

キーを押すと...
録音レベルを自動設定し、そのとき選んでいた入力の録音レベルとして記憶します。次からはキーを押さなくても同じレベルで録音できます。

基本レベルに戻すには...
インジケーターが消えるまで(約3秒間)キーを押したままにしてください。

- 約20秒で録音レベルの設定が終了し、録音ポーズ状態になります。
- 設定中(点滅中)に録音を始めると、ひずんだ音が録音される場合があります。
- CRLSキーを押したときから3秒以上無音が続くと、録音レベルの設定は中止されます。

CDまたはMDから録音するときのポイント

CD,MDを録音するときは、カセットデッキを録音ポーズ状態にしておくと、音楽ソースの再生とカセットデッキの録音を同時に始めることができます(シンクロ録音機能)。

❶ 再生するCDまたはMDを一時停止にする
❷ 録音したい曲をスキップキー(I◄◄ ►►I)で選ぶ
(選んだ曲の最初で一時停止になります。)
❸ カセットデッキを録音ポーズ状態にする
❹ CDまたはMDの再生を始める
(シンクロ録音がスタートします。)

- 再生機器の停止キーを押すと、録音を中止します。

ドルビーHX Proとは

DOLBY HX Pro headroom extensionとは、録音中に、録音している音の周波数成分に応じてバイアス電流をコントロールすることで、シンバルなどの高音域を美しく録音するシステムです。本機で録音すると、自動的にこのシステムが働きます。

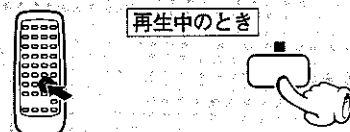
曲順を並べ替えて聴く(プログラム再生)

トレイに入れたディスクの中から好きな曲を、好きな曲順で聴くことができます。(最大32曲)

入力切換を"CD"にする

1 停止状態を確認する

再生中のとき

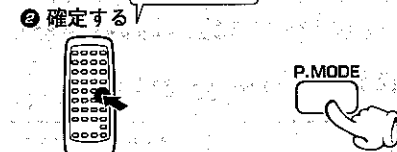
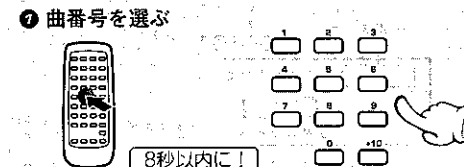
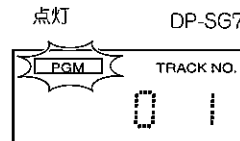
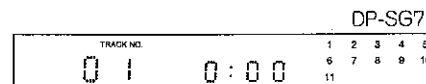
DP-SG7
TRACK NO. 01 0:00

2 "PGM"表示を点灯させる

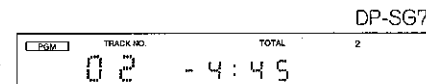
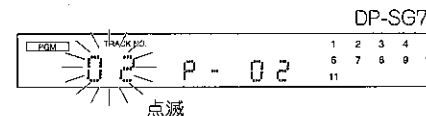
3 聴きたい順に曲を選ぶ

❶ 曲番号を選ぶ

8秒以内に!

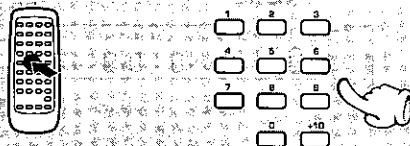
❷ 確定する

❸ 手順❶、❷を繰り返す

- 32曲まで選べます。"FULL"と表示されると、それ以上プログラムは受け付けません。
- 間違えたときは、CLEARキーを押してから選び直します。

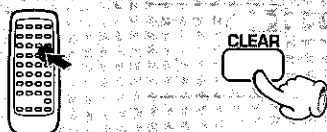
4 再生する

- 選んだ順(P-番号順)に再生します。
- 再生中に I◄◄ または ►►I キーを押すと、前後のプログラム曲へ飛び越します。
- 再生中に I◄◄ キーを一回押すと、その曲の最初に戻ります。

応用編

曲を追加するには

❶ 追加したい曲番号を選ぶ

❷ P.MODE(プログラムモード)キーを押す

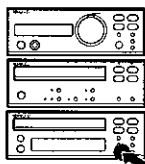
● 追加したい曲番号を選ぶとプログラムの最後に追加されます。

プログラムした曲を取り消すには

● キーを押す度に、最後の曲から1曲ずつ消えていきます。
● 再生中の曲は取り消せません。

プログラムを解除するには

● 再生中は、そのとき聴いている曲から曲番号順の再生に戻ります。
● OPEN(オープン)/CLOSE(クローズ)(▲)キーを押しても解除します。

スペース機能について

曲順のプログラム中に"space(スペース)"キーを押すと、曲間に数秒間の無音部分が作られます(SPACEインジケーター点灯)。この状態でカセットに録音すれば、DPSS機能(無音部分を探す)を使って、テープの頭出しやリピート再生などが確実に行なえます。

● 前曲と次曲の演奏がつながっている場合でも(クラシックやライブ収録など)、別々の曲番号がついていれば無録音部分が作られます。
● 解除するときは、もう一度"space(スペース)"キーを押してください。

繰り返し聴く(リピート再生)

お気に入りの曲やディスクを繰り返し聴くことができます。

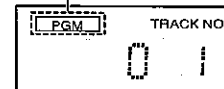
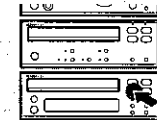
入力切換を"CD"にする

一枚のディスクを繰り返し聴く

❶ "PGM(プログラム)"表示の消灯を確かめる

"PGM(プログラム)"表示が点灯しているときは、P.MODE(プログラムモード)キーを押して消灯させてください。

消灯を確かめる
DP-SG7
PGM
TRACK NO.

❷ "REPEAT(リピート)"を指定する

❸ 再生する

繰り返し再生をやめるには

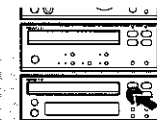
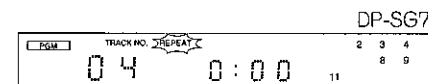
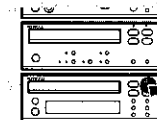
"repeat(リピート)"キーをもう一度押します。

● "REPEAT"表示が消灯し、CDプレーヤーのモードに従った再生に戻ります。

選んだ曲だけを繰り返し聴く

❶ "曲順を並べ替えて聴く(プログラム再生)"の手順❸までを行い、聴きたい曲をプログラムする →33

❷ "REPEAT"を指定する

DP-SG7

❸ 再生する

繰り返し再生をやめるには

もう一度"repeat(リピート)"キーを押します。

● "REPEAT"表示が消灯し、CDプレーヤーのモードに従った再生に戻ります。

予期しない曲順を楽しむ (ランダム再生)

毎回曲がランダム(無作為)に選択されるので、飽きることなく楽しめます。

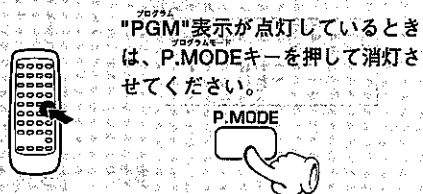
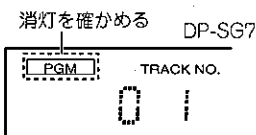
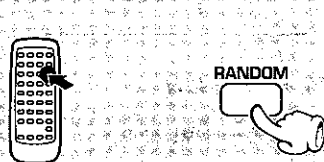
入力切換を"CD"にする

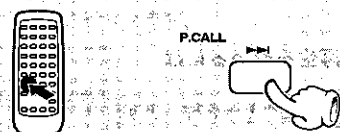
1 "PGM"表示の消灯を確かめる

"PGM"表示が点灯しているときは、P.MODEキーを押して消灯させてください。

消灯を確かめる DP-SG7
PGM TRACK NO.
01

2 RANDOMキーを押す

DP-SG7

- 全曲の再生が1回終わると停止します。
- "repeat"キーを押すと、ランダム再生が繰り返されます。

曲の途中で別の曲を選ぶには

- ⏮キーを1回押すと、再生している曲の初めに戻ります。

ランダム再生をやめるには

- 再生中の曲から曲番順の再生になります。

便利なCD録音のタイプを選ぶ

本機では、目的に合わせて次のような編集録音ができます。

メモ 本機はメタルテープでの録音はできませんのでご注意ください。

テープの終わりで曲が途切れるのは絶対にいやだ	➡	**テープの長さに応じて曲順を入れ替える (タイム編集録音)** →38 テープの長さをセットするだけの簡単な操作でCDを編集録音する方法です。
CDを聴きながら録音したい曲を選びたい	➡	**いい曲があれば、その曲だけ録音する (ワンタッチエディット1曲録音)** →39 CDを聴いていて、録音したい曲が出てきたら、O.T.E.(ONE TOUCH EDIT)キーを押してください。その曲の頭から録音が始まります。
一枚のCDを曲順通りに録音したい	➡	**一枚のCDをワンタッチで録音する (ワンタッチエディット全曲録音)** →40 CDの停止状態でO.T.E.(ONE TOUCH EDIT)キーを押すと、ワンタッチでディスクの録音を開始します。

R-SG7/DP-SG7/X-SG7 (JA)

テープの長さに応じて曲順を入れ替える (タイム編集録音)

テープの録音時間を指定すると、テープの折り返しや終端で曲が途切れないように、自動的に曲順を入れ替えて録音します。

録音の準備が必要です —30 (手順1〜4)

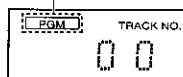
1 "EDIT"の表示を点灯させる

❶ "PGM"表示の消灯を確かめる

"PGM"表示が点灯しているときは、P.MODEキーを押して消灯させてください。

❷ EDITキーを押す

8秒以上放置すると、編集は中止されます。

消灯を確かめる

● "EDIT"モードを解除するときは、リモコンのP.MODEキーを押してください。

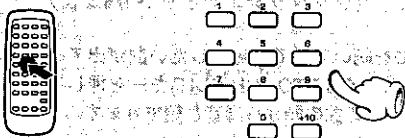
DP-SG7

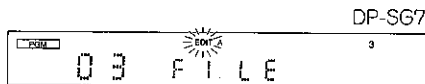
2 テープの長さをセットする

数字キーを押す順序は:

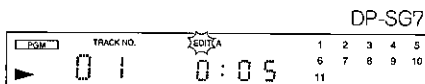
30分テープなら +10 +10 +10 0

46分テープなら +10 +10 +10 +10 6

DP-SG7

"time"キーを繰り返し押すと、46、54、60、90分テープを簡単に選べます。選んだ後は、EDITキーを押して、手順3へ移ります。

"EDIT"表示の点滅が点灯になったことを確かめてから、手順3へ。

● 自動編集が終了すると、"EDIT"表示が点灯します。
● 時間の入力をまちがえたときは、"EDIT"表示の点灯を確認して、手順1からやり直してください。
● 32曲まで編集できます。
● ▶▶| キーを押すたびに、編集された曲番号が順に表示され、再生されます。■ キーを押すと、最初の曲の曲番号に戻ります。

3 編集録音をスタートする

DP-SG7

● 録音が終了すると、自動的に停止します。

CDの内容(曲数や曲の長さ)とテープの録音時間など、条件の組み合わせにより、曲順を入れ換えても音の途切れが避けられない場合、録音されない曲が発生することがあります。

R-SG7/DP-SG7/X-SG7 (JA)

いい曲があれば、その曲だけ録音する (ワンタッチエディット1曲録音)

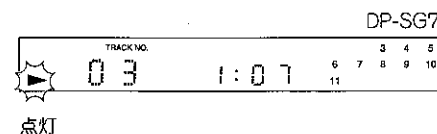
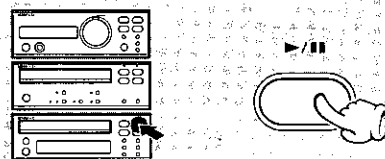
CD再生時に気に入った曲をその場で選び、録音することができます。

DM-SG7(別売)でMDを再生しているときは、同様の手順で、その曲だけをテープに録音することができます。

録音の準備が必要です —30 (手順1〜4)

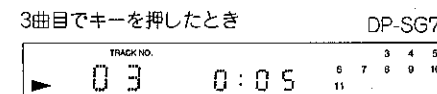
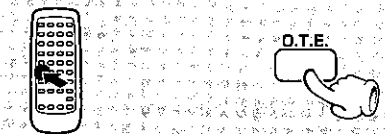
1 CDを再生する

ランダム再生以外を選んでください

DP-SG7

点灯

2 録音したい曲の再生中にO.T.E.(ONE TOUCH EDIT)キーを押す

3曲目でキーを押したとき

DP-SG7

● 再生中の曲の初めに戻り、録音が始まります。

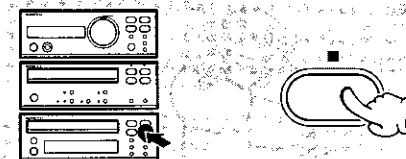
録音が終了すると、4秒間の無録音部分を作り、カセットデッキが停止します。CDプレーヤーは一時停止状態になります。

他の曲を録音するには……手順 1 , 2 を繰り返してください。

あらかじめCRLSを設定しておくと、より最適な録音ができます。 —32

録音を途中でやめるとき

● カセットデッキとCDプレーヤーが停止します。

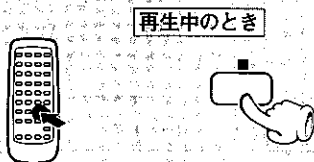
R-SG7/DP-SG7/X-SG7 (JA)

一枚のCDをワンタッチで録音する (ワンタッチエディット全曲録音)

CD停止中にO.T.E.(ワンタッチエディット)キーを押すと、CDの再生と同時に録音を開始することができます。

DM-SG7(別売)を接続しているときは、入力切換を"MD"にしておくと、同様の手順で一枚のMDをワンタッチでテープに録音することができます。

録音の準備が必要です →30 (手順1〜4)

1 停止状態を確認する

再生中のとき

- CDを録音する場合は入力切換をCDにします。

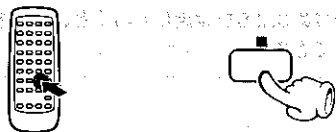
曲順をプログラムしてから手順2を行うこともできます。

2 O.T.E.(ONE TOUCH EDIT) キーを押す

- CDの再生と同時に録音が始まります。
- カセットテープの折り返し部分では、ガイドテープの分だけ曲が録音されません。曲が途切れないように録音したいときは、"録音のしかた"にしたがってうら面の最初から録音し直してください。 →30

録音を途中でやめるとき

- カセットデッキとCDプレーヤーが停止します。

応用編

R-SG7/DP-SG7/X-SG7 (JA)

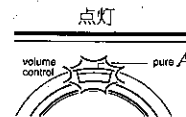
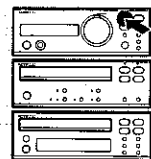
ピュアAモードで聴く

セットのそばで聴くときや、夜間など小音量で聴くときは、純A級動作モード(ピュアA)にすることをおすすめします。滑らかな高音質をお楽しみいただけます。
大きめの音量で聴くときは、通常のモードでお楽しみください。

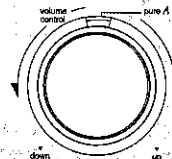
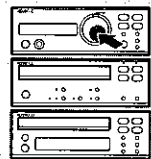
⚠注意

ピュアAモードのときは、音楽ソースを再生していないときにも常に一定の電力が消費されているので、アンプ部の温度が高くなります。

1 ピュアAをオンにする

点灯

R-SG7

2 音楽を再生する

3 音量を調節する

R-SG7

音量の表示

- 小音量にあわせた音量表示に変わります。
- ピュアAモードのときにもう一度押すと、通常のモードになります。(ピュアAインジケーター消灯)

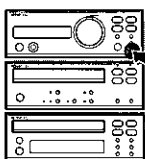
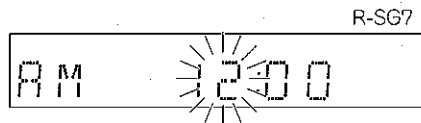
応用編

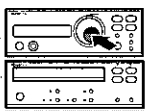
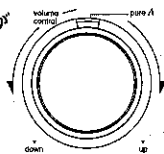
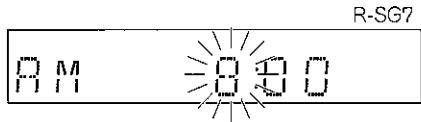
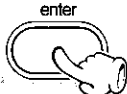
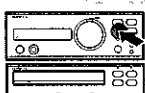
ピュアAとは

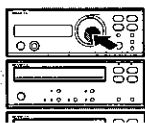
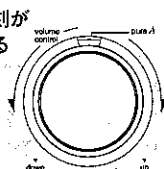
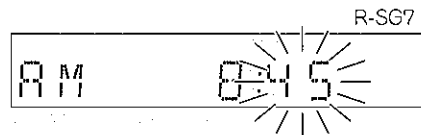
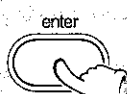
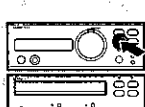
アンプ部は、CDなどから入ってくる音の信号の電圧と電流を増幅し、スピーカーに送るはたらきをしています。この電流を増幅するときに発生するひずみを抑えるため、A級動作またはAB級動作と呼ばれるアンプでは、電流を増幅する回路部に常に電流が流れています。これをアイドリング電流といいます。特にA級動作アンプでは、多くの機器で採用されているAB級動作アンプに比べて多くのアイドリング電流が流れています。この結果、なめらかな高音質の再生が可能になります。しかし一方では、音楽ソースを再生していないときにも、常に一定の電力が消費されているので、アンプ部の温度が比較的高くなります。このためA級動作の音質を楽しむには、大容量の電源を持つ高級アンプが必要でした。
本機は通常のモードではAB級動作アンプですが、手軽にA級動作アンプの高音質をお楽しみいただくために、小音量で聴くときに使用できるA級動作のモード(ピュアA)を用意しました。セットのそばで聴くときや夜間など、小音量で聴くときは、ぜひピュアAの音質をお楽しみください。

本機には、時計機能がついています。タイマーを使う前に必ず正確な時刻を合わせてください。

電源がオフになっていることを確認してください。

1 時刻合わせモードにする

8時45分に合わせる例

● 時間表示が点滅を始めます。

2 時間を合わせる

● 時刻は12時間表示で表示されます。
● "enter"キーを押すと時間が設定されて、分表示が点滅を始めます。

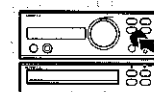
3 分を合わせる

● 間違えて押したときは、最初からやり直してください。
● 時報と同時に"enter"キーを押すと正確な時刻表示ができます。
● 停電があったり、電源プラグをコンセントから抜いたときは、時刻表示が点滅します。その場合は、もう一度時刻合わせをしてください。

オペレート イージー トゥー ユーズ タイマー(O.T.T.)
　指定の時刻に、選んだ入力ソースの再生が始まり、1時間経つと電源がオフになります。設定直後の1回だけ働きます。
おやすみタイマー
　設定した時間が過ぎると、自動的に電源が切れます。
タイマー再生、タイマー録音
　設定した時間帯に、選んだソースを再生(または放送を録音)します。
AI タイマー再生
　タイマー再生開始後、徐々に音量が大きくなります。

時刻合わせを済ませてから、タイマーを設定してください。→42

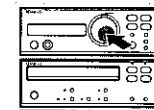
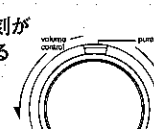
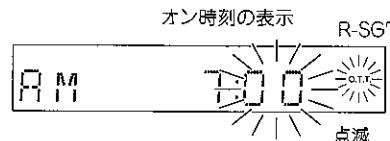
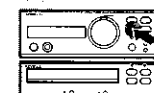
オペレートイージートゥーユーズタイマー (Operate easy To use Timer : O.T.T.)

時刻をセットするだけのカンタンな操作で、タイマー再生ができます。電源をオフにする前に、最後に選ばれていたソースが再生されます。タイマー再生開始から1時間で、電源が自動的にオフになります。

❶ 聴きたいソースを選び、音量を設定する
❷ 電源をオフにする
❸ tuning(▽)キーを押す

O.T.T.タイマーで再生されている間は、プログラムタイマーは働きません。

● tuning(▽)キーを押すと、入力ソースの表示になり、数秒後にオン時刻の表示になります。

❹ オン時刻をセットする

オン時刻の表示

● オン時刻は、5分単位で設定できます。
● 他のタイマーと組み合わせた場合、最後に動作した入力ソースが再生されます。

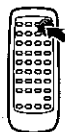
❺ 決定する

解除するには

電源がオフのままで、tuning(▽)キーを2回押す。

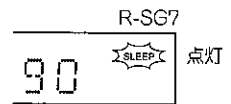
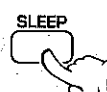
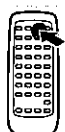
おやすみタイマー

何分後に電源を切るかを設定します

❶ 電源をオンにする

● セットした時間が過ぎると、自動的に電源がオフになります。
● 1回押すごとに10分ずつ減っていきます。最大約90分まで設定できます。

90 → 80 → 70 ..... 30 → 20 → 10 → 解除 → 90 → 80 .....

❷ 時間を設定する

セットする時間

解除するには

電源をオフにする、またはSLEEPキーを解除になるまで押す

プログラムタイマー予約

24時間タイマーです(毎日働きます)。
働く時間帯と内容を予約しておき、必要に応じて、働かせるか、働かせないかを選べます。

時刻合わせを済ませてから、タイマーを設定してください。→42

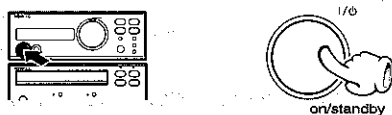
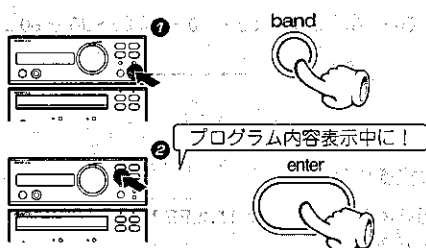
1 聴く(録音する)ための準備をする

●ラジオ放送を聴く	●CDを聴く	●テープを聴く	●MDを聴く	●録音をする
放送局をプリセットしておく→29	ディスクを入れる(プログラム再生はできません。)	カセットデッキにテープをセットする	MDレコーダーにディスクをセットする	録音の準備をする →30 手順1〜4

MDレコーダー(DM-SG7)で再生・録音するときはDM-SG7に付属の取扱説明書をあわせてご覧ください。

2 音量を調節する

● 放送を録音するときは、タイマーで電源がオンになると、ミュートが自動的にオンになります。

3 電源をオフ(スタンバイ状態)にする

4 タイマー予約モードにする

● "PROG."インジケーターが点灯します。
● すでに予約されているときは、新しい設定内容に変わります。

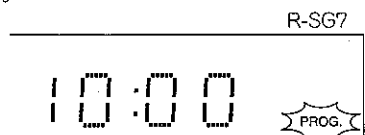
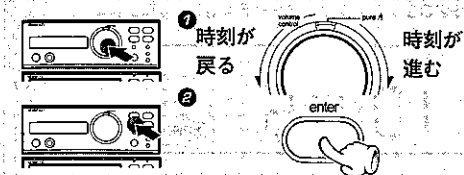
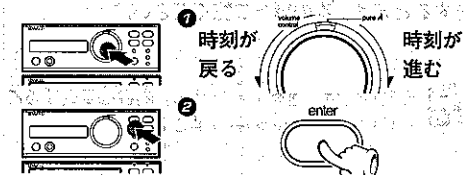
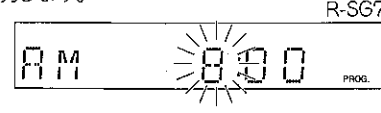
R-SG7

5 オン時刻を設定する

● ❶、❷の手順を行ない"時"を入力した後、同じ手順で"分"を入力します。

R-SG7

AM 7:00 PROG.

● 間違えたときは手順4からやり直してください。

6 オフ時刻を設定する

● ❶、❷の手順を行ない"時"を入力した後、同じ手順で"分"を入力します。

● 間違えたときは手順4からやり直してください。

7 希望の予約を設定する

タイマー再生、AIタイマー再生をするとき

❶ モードを選ぶ

"PLAY"または"AI"を選ぶ

PLAY…… タイマー再生
AI………… だんだん音が大きくなるタイマー再生
REC

決定する

❷ 入力ソースを選ぶ

何を聴くか選ぶ

TUNER… ラジオ放送
CD……… CD
TAPE…… テープ
MD……… MD(DM-SG7)
AUX

決定する

❸ 放送局を選ぶ(TUNER時のみ)

プリセットチャンネルを選ぶ

決定する

放送のタイマー録音をするとき

❶ モードを選ぶ

"REC"を選ぶ
PLAY
AI
REC

決定する

❷ 入力ソースを選ぶ

何を聴くか選ぶ
TUNER
AUX

決定する

❸ 放送局を選ぶ(TUNER時のみ)

プリセットチャンネルを選ぶ

決定する

❹ 録音する機器を選ぶ

TAPE… テープ
MD …… MD (DM-SG7)

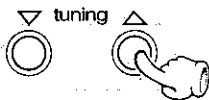
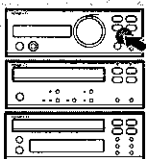
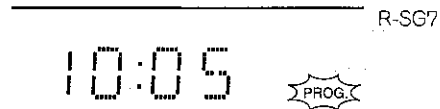
決定する

次ページに続く

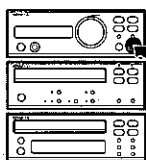
8 プログラムをセットする

● "PROG."インジケーターが点灯します。

R-SG7

10:05 PROG.

● プログラムをセットしないと、タイマーは働きません。

以上でプログラムタイマー予約は終了です。確認・変更などをするときは、次の項をご覧ください。

電源がオフになっていることを確認してください。

メモ 予約内容は、削除できません。内容を変更することにより、以前の内容が消されます。

予約の内容を確認する

● 予約内容を3秒ずつ表示していきます。そのあと、元に戻ります。

予約内容を変更したいときは

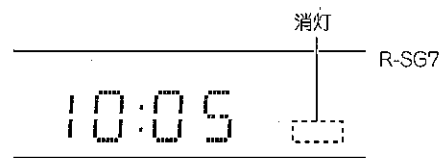
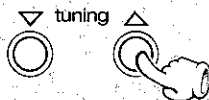
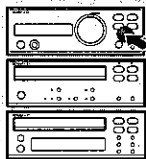
"プログラムタイマー予約"を始めからやり直してください。 →44

タイマーを働かせたくないとき

プログラム表示を消灯させる

消灯

R-SG7

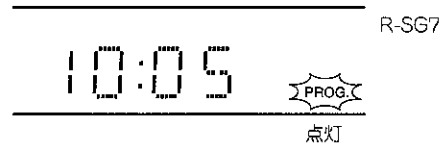
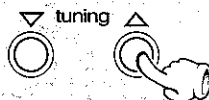
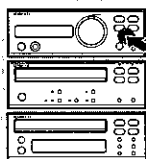
10:05

● 予約内容は記憶しています。

再び同じ内容のタイマーをセットする

プログラム表示を点灯させる

R-SG7

10:05 PROG.

点灯

● ディスク、テープの準備、音量の調節をしておきます。

ディスクとテープの取り扱いかた

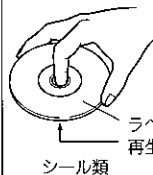
本機で使用できるディスクについて

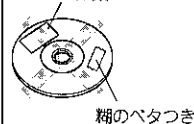
CD (12cm、8cm)、CDVとCD-G (CDグラフィックス)、CD-EXTRAの音声部分が再生できます。
ディスクレーベル面に DIGITAL AUDIO のマークが入ったものなどIEC規格に合格したものをご使用ください。

異常なディスクは使用しない

再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや欠けのあるディスク、大きくそったディスク等は絶対に使用しないでください。プレーヤーの破損、故障の原因になります。円形以外の形をしたディスクは、故障の原因になりますので、ご使用にならないでください。

ディスク取扱上のご注意

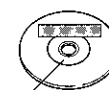
シール類

取り扱い
再生面にふれないように持ってください。

再生面はもちろん、ラベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。

お手入れ
ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。

保存
長い間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。

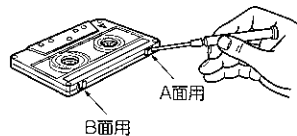
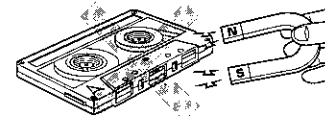
ディスクアクセサリーについて

音質向上やディスク保護を目的としたディスク用アクセサリー（スタビライザー、保護シート、保護リングなど）およびレンズクリーナーは、故障の原因になりますので、ご使用にならないでください。

レンタルディスク、中古ディスクの取り扱いについて

図の様にクランピングエリアにシールが貼られているディスクはご使用にならないでください。シールから糊がはみ出したり金属板が貼られている場合があり、ディスクが取り出せなくなる恐れがあります。シール類をはがした後、糊がラベル面に残っていると、故障の原因になります。糊のベタつきがある場合、必ずふき取ってからご使用ください。

カセットテープについてのご注意

誤消去防止装置
大切な録音のあとには、カセットのツメを折ってください。
誤消去・誤録音が防げます。

再び録音するには ツメを折った所だけにテープをはる。

カセットテープの保管について
直射日光下や暖房器などのそばに放置しないでください。
また、磁石や磁気は近づけないでください。

テープがたるんでいる場合
このような場合には、リール軸に鉛筆などを差し込んで、テープのたるみをとってから装着してください。

メモ

1.100分以上のテープについて
100分以上のテープは大変薄く、ピンチローラーに巻きついたり、切れたりトラブルが発生しやすいので、ご使用はお避けください。

2.エンドレステープについて
エンドレステープは故障の原因となりますので、ご使用にならないでください。

メンテナンス

ヘッドのお手入れ

ヘッド回りのクリーニング
いつまでも最良の状態でご使用になるには、テープ再生時間約10時間ごとに、ヘッド(録音/再生/消去)、キャプスタン、ピンチローラーのクリーニングを心がけてください。

クリーニングは、市販のクリーニングテープで行ってください。
詳しくは、クリーニングテープの取扱説明書をお読みください。

ヘッドの消磁
録音・再生ヘッドが磁気を帯びると雑音が大きくなります。市販の消磁器(ヘッドイレーサー)で消磁してください。

セットのお手入れ
前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について
接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

参考

結露にご注意
本機と外気の温度差が大きいと、本機に水滴(露)が付くことがあります。この現象がおきますと、本機が正常に動作しないことがあります。
このようなときには、本機の電源を入れた状態で、数時間放置し、乾燥させてからご使用ください。

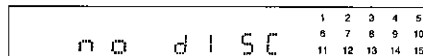
次のような状態のときは、特に結露にご注意ください。
気温差の大きいところへ持ち込んだときや、湿気の多い部屋など。

ドルビーノイズリダクション及びHX PROヘッドルームエクステンションはドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。HX PROはバングアンドオルフセンの考案です。
ドルビー、DOLBY、ダブルD記号及びHX PROはドルビーラボラトリーズの商標です。

輸送時または移動時のご注意
本機を輸送するときや、移動するときは、下記の操作を行ってください。

1. **ディスクを入れないで電源をオンにします。**
2. **数秒間待って、ディスプレイ部が図の表示になったことを確かめてください。**

DP-SG7

no dISC　1 2 3 4 5 / 6 7 8 9 10 / 11 12 13 14 15

3. **電源をオフにします。**

著作権について
あなたが録音または録画したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

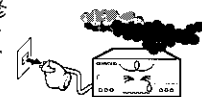
メモリーバックアップ

電源プラグをコンセントから抜くとすぐ消えるメモリーの内容	時計表示
電源プラグをコンセントから抜いて最低1日で消えるメモリーの内容	**アンプ部** POWERの状態(ONまたはOFF) 入力切換 ボリュームの値 TONEのレベル **チューナー部** 受信バンド 周波数 プリセット放送局 プログラムの設定内容

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

異常が起きた場合は

煙が出たり、変な臭いや音がする場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に、症状にあわせて一度チェックしてみてください。

マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。
マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

R-SG7
電源プラグをコンセントから抜き、I/⏻(on/standby)キーを押しながら、差し込み直す。
DP-SG7
電源プラグをコンセントから抜き、もう一度差し込み直す。
X-SG7
電源プラグをコンセントから抜き、停止(■)キーを押しながら、差し込み直す。

●リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ・チューナー・スピーカー

症状	原因	処置	参照
音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●ミュートがオンになっている。 ●ヘッドホンプラグが差込まれている。	●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 ●適当な音量にする。 ●ミュートをオフにする。 ●ヘッドホンプラグを抜く。	→14 →20 →21 →21
表示部がすべてのケタで"--"の点滅表示となり、音が出ない。	●スピーカーコードがショートしている。	●一時、電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度電源スイッチを入れる。	→14
スピーカーの片側から音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。	●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。	→14
時刻表示が、ある時間で止まったまま点滅している。	●停電があった。 ●電源プラグを一度抜いた。	●現在時刻をもう一度合わせる。 ●現在時刻をもう一度合わせる。	→42 →42
タイマーが作動しない。	●現在時刻を合わせていない。停電があった。 ●タイマーのオン時刻とオフ時刻を設定していない。 ●タイマーの実行指定をしていない。	●"時刻合わせ"をみて現在時刻を合わせる。 ●タイマーのオン時刻とオフ時刻を設定する。 ●"Tuning(△)"キーで実行指定をする。	→42 →44 →46
ラジオ放送が受信できない。	●アンテナを接続していない。 ●受信バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。	●アンテナを接続する。 ●受信バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。	→11 →28 →28
雑音が入る。	●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。	→11

アンプ・チューナー・スピーカー

症状	原因	処置	参照
プリセットしたあと、プリセットコールで受信できない。	●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。 ●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。	●受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ●もう一度プリセットする。	→29 →29

カセットデッキ

症状	原因	処置	参照
再生キーを押しても音が出ない。	●ヘッドが汚れている。 ●巻き取りムラがありテープが重くなっている。 ●未録音テープを再生している。	●"ヘッドのお手入れ"をみてヘッドを清掃する。 ●テープを交換してみる。 ●録音済みテープを使う。	→48
操作キーを押しても作動しない。	●電源を入れてから、4秒以内に操作キーを押している。 ●テープが入っていない。 ●巻き取りムラがありテープが重くなっている。 ●テープがどちらかに巻き取られている。	●4秒以上たってから操作キーを押す。 ●テープを入れる。 ●テープを交換してみる。 ●デッキの走行方向をかえる、またはテープを裏返す。	→24 →25
DPSSが誤動作する。	●曲と曲の間が短いなどDPSSに不適当なテープを使用している。	●"飛び越し選曲"をお読みください。	→26
オープンクローズキーを押してもトレイが開かない。	●録音中に押している。 ●外部からの雑音によりマイコンが誤動作した。	●停止状態で押す。 ●いったん電源プラグを抜いて差し込み直す。	→25 →50
音がかすれたり高音が出なくなる。	●ヘッドが汚れている。 ●テープがのびたり、ワカメ状になってる。	●"ヘッドのお手入れ"をみてヘッドを清掃する。 ●テープを交換する。	→48
音がひずむ。	●CRLSキーで録音レベルの設定をしていない。 ●ひずんだ音で録音されたテープを再生している。	●"録音のしかた"をお読みください。 ●テープを交換する。	→30
雑音が大きい。	●ヘッドが磁気を帯びている。 ●外部の雑音を誘導している。 ●ドルビーNRをオンで録音したテープをオフで再生している。	●"ヘッドのお手入れ"をみて消磁する。 ●電気器具、テレビなどから離す。 ●DOLBY NRをオンにする。	→48 →25
音がふるえる。	●キャプスタン、ピンチローラーが汚れている。 ●テープに巻き取りムラがある。	●"ヘッドのお手入れ"をみてヘッドを清掃する。 ●テープの端から端まで通して早送り、巻戻し、または再生をして巻き直す。	→48 →25

カセットデッキ

症　状	原　因	処　置	参照
録音キーを押しても録音できない。	●カセットテープのツメが折れている。 ●入力切換キーが、TAPEになっている。 ●テープがどちらかに巻き取られている。	●ツメの折れていないテープを使う、または穴をふさぐ。 ●入力切換キーを録音したいソースにする。 ●デッキの走行方向をかえる、またはテープを裏返す。	→47 →31 →30

CDプレーヤー

症　状	原　因	処　置	参照
ディスクを入れても再生できない。	●ディスクが裏返しに入っている。 ●ディスクがずれている。 ●ディスクがひどく汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●光学レンズに露がついている。	●ラベル面を上にして、正しく入れる。 ●ディスクを正しく入れ直す。 ●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。 ●ディスクを取り換える。 ●"結露にご注意"を参照し露を蒸発させる。	→22 →22 →47 →49
音が出ない。	●ディスクが入っていない。 ●再生状態になっていない。 ●ディスクがひどく汚れている。 ●ディスクに傷がついている。	●ディスクを入れる。 ●▶/II キーを押す。 ●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。 ●ディスクを取り換える。	→22 →22 →47
音とびがする。	●ディスクが汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●本機に震動が加わっている。	●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。 ●ディスクを取り換える。 ●震動のない場所に設置する。	→47

リモコン

症　状	原　因	処　置	参照
リモコンで操作できない。	●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDが入っていない。 ●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。	●新しい電池に入れ換える。 ●操作範囲内で操作する。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDを入れる。 ●録音が終わるまで待つ。	→19 →19

1. テープの種類によっては、自動的にテープが止まったときに"ギュー"という音がすることがあります。これはテープ保護機構が働くためで、故障ではありません。
2. 100分以上のテープは、テープ厚が薄くてわかめ状になりやすいため、ご使用にならないでください。

定格

⚠ このページは、安全確保のために必ずお読みください。

アンプ・チューナー (R-SG7)

[チューナー部]

FMチューナー部

受信周波数範囲 .... 76MHz～90MHz
実用感度(モノラル)
.... 2.0 μV(75 Ω) / 17.2 dBf
SN比(1 kHz, 75 kHz dev.)
　モノラル .... 73 dB(65 dBf 入力時)
　ステレオ .... 65 dB(65 dBf 入力時)
実効選択度 (±400 kHz) .... 50 dB
ステレオ セパレーション(1 kHz) .... 40 dB
出力レベル/インピーダンス(FM 1kHz、75kHz DEV.)
　固定出力 .... 0.6 V / 1 kΩ

AMチューナー部

受信周波数範囲 .... 531kHz～1,602kHz
実用感度 .... 15 μV(500 μV / m)
SN比
　モノラル .... 51 dB

[アンプ部]

実用最大出力
　AB級 .... 20W+20W(EIAJ 6Ω)
　A級 .... 7.5W+7.5W(EIAJ 6Ω)
SN比
　ライン 94dB
全高調波ひずみ率 .... 0.02 %(1 kHz、10 W、6 Ω)
周波数特性
　ライン .... 20 Hz～40 kHz、+0 dB、−3 dB
入力感度/インピーダンス
　ライン .... 200 mV / 47 kΩ
出力レベル/インピーダンス
　TAPE REC .... 200 mV /1 kΩ
　スーパーウーファープリアウト .... 2 V / 1 kΩ

[電源部・その他]

電源電圧・電源周波数 AC100V, 50Hz/60Hz
定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示) 38W
最大外形寸法 .... 幅　200mm
　高さ　77mm
　奥行　278mm
質量(重量) .... 3.0kg (正味)

CDプレーヤー (DP-SG7)

読み取り方式 .... 非接触光学式読み取り(半導体レーザー)
回転数 .... 200rpm～500rpm(CLV)
周波数特性 (EIAJ) .... 4 Hz～20,000 Hz
SN比 (EIAJ) .... 100 dB以上
ダイナミックレンジ (EIAJ) .... 96 dB以上
全高調波ひずみ率 (EIAJ) .... 0.004 %以下 (1 kHz)
チャンネルセパレーション (EIAJ) ... 92 dB以上 (1 kHz)
ワウ・フラッター (EIAJ)
.... 測定限界以下 (±0.001% W PEAK)
出力レベル／インピーダンス
　固定出力 .... 1.2 V / 1 kΩ
デジタル出力
　オプチカル .... -15 dBm ～ -21 dBm
(発光波長 660 nm)

[電源部・その他]

電源電圧・電源周波数 AC100V, 50Hz/60Hz
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) ...... 10 W
ACコンセント .... 2 (非連動最大合計 200W)
最大外形寸法 .... 幅　200 mm
　高さ　77 mm
　奥行　249 mm
質量 (重量) .... 2.0 kg (正味)

カセットデッキ(X-SG7)

トラック方式 4トラック2チャンネルステレオ
録音方式 .... 交流バイアス (周波数：105kHz)
ヘッド
　録音・再生ヘッド 1
　消去ヘッド 1
モーター .... DCモーター ×1
ワウ&フラッター .... 0.1% (W.RMS)
早巻き時間 約110秒 (C-60)
周波数特性
　TYPE Ⅰ (ノーマルテープ) .. 40Hz〜18kHz, ±3dB
　TYPE Ⅱ (クロームテープ) .. 40Hz〜19kHz, ±3dB
総合SN比(クロームテープ)
　DOLBY NR OFF 60dB
　DOLBY B NR ON 67dB
　DOLBY C NR ON 73dB
入力感度/インピーダンス
　ライン (REC) 77.5mV/47kΩ
出力レベル/インピーダンス
　ライン (PLAY) 775mV/10kΩ

[電源部・その他]
電源電圧・電源周波数 AC100V, 50Hz/60Hz
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) 10W
ACコンセント 1 (非連動最大100W)
最大外形寸法 .... 幅　200mm
　高さ　77mm
　奥行　249mm
質量(重量) .... 2.2kg(正味)

1. これらの定格およびデザインは、改善のため、予告なく変更することがあります。
2. 極端に寒い(水が凍るような)場所では十分に性能が発揮できないことがあります。

保証書　(別途添付)

製品には保証書が(別途)添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーションへお問い合わせください。
(お問い合わせ先は、添付の「ケンウッドサービス網」をご覧ください。)

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後、8年間です。
この期間は、通商産業省の指導によるものです。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について

システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器(基本システム)すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」に従って調べていただき、なお異常があるときは、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーションが修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理／持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号(Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状(できるだけ具体的に)
- ご住所(ご近所の目印等も併せてお知らせください)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み

(有料修理の場合は、次の料金をいただきます)

- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

お買上げ店名

電話 (　　　　)　　　-